

令和6年度第1回広島の拠点性強化に向けた懇話会ワーキンググループ会議 開催記録

1 開催日時

令和6年8月2日（金）14:00～16:30

2 開催場所

広島市立大学サテライトキャンパス セミナールーム1

3 出席委員（順不同・敬称略）

宮地 宏	中国経済連合会常務理事
植野 実智成	広島商工会議所専務理事
村上 英之	広島経済同友会常任幹事
津賀 一弘	広島大学理事・副学長
大芝 亮	広島市立大学広島平和研究所所長
松本 智寛	㈱もみじ銀行営業統括部長
有賀 正宏	㈱日本政策投資銀行中国支店支店長
田中 裕之	㈱日本政策金融公庫広島支店支店長
福田 由美子	広島工業大学教授
山田 知子	比治山大学教授
脇谷 直子	広島市情報政策アドバイザーボード委員（広島修道大学教授）
阪谷 幸春	広島市企画総務局長

4 議事内容

- ・ 第2期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略の取組状況
- ・ 第2期広島広域都市圏発展ビジョンの取組状況
- ・ 第3期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略の策定
- ・ 広島の拠点性強化に向けて（共助の精神に基づく「学生・若者に優しいまち」づくり）

5 主な意見等

- (1) 第2期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略及び第2期広島広域都市圏発展ビジョンの取組状況について
 - ・ 総合戦略や都市圏発展ビジョンで掲げる理想とする広島市・広島広域都市圏になれたかどうかを判定できるKPIとなるよう留意する必要があるのではないか。
- (2) 第3期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略の骨子案について
 - ・ 就職時に一旦転出したが、結婚・子育てを機に広島に戻ってくる卒業生の話も耳にしており、晩婚化等の影響も考えて、例えば40歳くらいまでを若い世代と捉えてもいいのではないか。

- ・ 総合戦略の数値目標として、いかに転出させないかを考えているように見えるため、転出超過数を掲げることがふさわしいかどうか、検討が必要ではないか。
 - ・ コロナ禍を経て、取組の方法を変える必要があるものもあると思う。K P Iについては、そういったことも踏まえて検討していく必要があるのではないか。
 - ・ 転出した人に戻ってきてもらう施策にもう少し重点を置いても良いのではないか。その際、広島市内の関係者だけでなく、外部の知恵や力を活用することも考えてはどうか。
 - ・ 民間企業、大学とも人材確保が共通の課題となっており、地域総出のまちづくりは自らだけでは解決できない問題を協力して解決するということを考える良い機会ではないか。
 - ・ 地域総出の取組を進めるに当たっては、域内で取り組むことに加えて、域外との関係も重要だと考える。
 - ・ 国際都市を目指すならば、求める人材像は「地域指向型」ではなく「世界指向型」とすべきではないのか。
 - ・ 地域総出で取り組んでいく中で、協調領域と競争領域の整理が必要である。
 - ・ D Xについては、実現したいことのためにデジタル技術を有効に活用していくという視点が重要であり、D X自体が目的にならないよう留意する必要がある。
- (3) 意見交換テーマ（共助の精神に基づく「学生・若者に優しいまち」づくり）について
- ア 全体に係る意見
- ・ 学生の生活支援・就職支援等については、大学の業務として、これまでも全力を挙げて取り組んできたつもりであり、取組については協力したい。
 - ・ 学生への支援については、当事者に話を聞きながら柔軟に対応していくことが必要ではないか。
 - ・ 「学生・若者に優しいまち」の「優しい」に込めた意味を明確にすべきではないか。
- イ 学生生活の支援（自宅生、下宿生、留学生等それぞれの学生の生活態様に応じた応援対策等）
- ・ 学生への経済的な支援が広島への定着につながるかは検討が必要である。
 - ・ 中小企業は経営上の問題で、学生・若者に対する支援をしたくてもできない現状があり、大学・行政と連携しながら、企業が活躍できる土台づくりに取り組んでいく必要がある。
- ウ 進学先・就学先の確保
- ・ 東京圏・関西圏に就職している学生の選択基準に企業のブランド力

があるので、広島で就職してもらうためには、地元企業のブランド力を高め、伝えていくことが重要ではないか。

- ・ インターンシップについて、大企業等が行うものと行政がイメージするものでは内容に乖離があるのではないかと感じており、もっと踏み込んだ検討が必要である。
- ・ 若者に、多様な働き方の選択肢の一つとして起業を視野に入れてもらいたいと考えており、その意識を高めるため、社会に出る直前の時期である高校や大学での起業家教育を充実させていく必要があると考えている。若者が失敗を恐れず挑戦できるような環境を作っていくことが重要ではないか。

エ 学生・若者がわくわくするまちづくり

- ・ 学生が一度就職で外に出ても広島に帰ってきたいと思わせるためには、広島愛が大切であり、学生の時に思い出に残る体験をどのくらいしたかが重要である。そういった経験の積み重ねが、将来広島に戻ってきたいという気持ちにつながると考える。
- ・ 学生が住み続けたい地域を自ら作る体験を促すことについては、広島都心会議での取組との連携が考えられるのではないか。

オ その他

- ・ 広島から若者が転出してしまうのは郷土愛がないからであり、小学校から大学までの間に定期的に広島の良いところを教える機会が必要だと思う。
- ・ どこに住んでいたとしても広島との関わりを継続してもらえようという発想で政策を考える必要があるのではないか。
- ・ 広島のみをまちづくりを考える際には、国内だけでなく海外とのつながりも意識した視点が必要であり、いろいろなことを経験した人になるべく早く広島に戻ってきてもらうという発想も重要である。